

⑫ 日本国特許庁 (JP)

## ⑬ 公開特許公報 (A)

⑭ Int. Cl.

D 04 H 3/16  
3/03

識別記号

厅内整理番号

6844-4L  
A-6844-4L

審査請求

⑮ 発明の名称 嵩高長繊維不織布

⑯ 特願 昭62-112540

⑰ 出願 昭62(1987)5月11日

⑮ 発明者	長谷川 雅保	滋賀県守山市小島町515
⑯ 発明者	前田 昌彦	滋賀県守山市小島町515
⑰ 出願人	旭化成工業株式会社	大阪府大阪市北区堂島浜
⑱ 代理人	弁理士 青木 朝	外4名

## 明 講 書

## 1. 発明の名称

嵩高長繊維不織布

## 2. 特許請求の範囲

1. 條織数が2~30個/25cmである連続した複数のフィラメントから成り、筋斑のなく且つ目付分数織数が80以下の嵩高長繊維不織布。

## 3. 発明の詳細を説明

得られた不織布し、スパンポン嵩高なスパンボている。例えばて柔軟なものはく肌に当たる側一ト等にその肌られるであろうの改良に。さら

①特許出願公開

） 昭63-282351

②公開 昭和63年(1988)11月18日

未請求 発明の数 1 (全6頁)

番地 旭化成工業株式会社内

番地 旭化成工業株式会社内

1丁目2番6号

の嵩高性が劣るという問題点を有  
し不織布の用途が広がるにつれて  
シンド不織布に対する要望が高まつ  
て嵩高なスパンボンド不織布で薄く  
、使い捨てオムツのトップシート  
のシート)や生垣用品のトップシ  
ートなどに用いられる。また、さわりの良さによつて有用に用い  
し、又扱いものは土壤中の排水  
性ポリオレフィン等の親油性に富

## 〔実業上の利用分野〕

本発明は溶融性ポリマーを紡糸し、綿織維にする事なく、そのままウニップを形成して作られた不織布に関する。より詳しくは捲縮を有する長纖維を用い、それぞれの長纖維が十分に分散された高な長纖維不織布に関する。

## 〔従来の技術〕

現在スパンカンド不織布は各種用途に広く用いられている。しかしこれらスパンカンド不織布に用いられるフィラメントは無捲縮であるために

むものを用いた  
マット材として  
嵩高性のある  
機種(たとえば  
ア製造機により  
タ等の過効果が  
ある。

しかしながら  
経る事なく、直  
て作られるので  
ダ部分の破損に

場合には、排水浄化用のオイルを  
有用に用いることができる。

不織布自体は一般に捲線のある短  
チャソ(58根端)をカード式ウエ  
ウエブを作成し、熱風ポンディング  
ンディング法により作ることがで

、スペインガンド不織布は短纖維を  
捲長纖維ウエブにすることによって  
、布強度が強い。且つポンディング  
による短纖維の脱落がない等の特性